

みんなで作る園の未来!

保育ナビ

2025
MAY
〈2/12〉

5

特集

職員がいきいき
する職場に!
働きがいと
働きやすさの
バランスを
考える

小学1年生の授業を拝見!
～学びを通してつながりを理解する
生活科 はなをさかせよう

0・1・2歳児
保育者のセンス・オブ・ワンダー
子どもの心を豊かに育むために
こだわり屋さんの感性

職員みんなで考える
保護者支援 10のポイント
保護者のことを知る

連続テレビ小説
「あんばん」
(NHK)
応援特別企画

私が見た、暢のぶさんと やなせたかし先生

3月31日、連続テレビ小説「あんばん」(NHK)／月々土午前8時〈総合〉ほか)がスタートしました。主人公のモデルは、絵本『あんばんまん』の作者・やなせたかし先生の妻・暢さん。2人で人生の荒波を乗り越え、「アンパンマン」にたどり着くまでの愛と勇気の物語です。今回は、昨年末にドラマの放送決定を契機に行われた、(株)やなせスタジオ代表取締役 越尾正子さんの講演会の模様を紹介します。越尾さんでなければ語ることでできない数々のエピソードは、ドラマはもちろん、絵本作品への関心もより一層、高めてくれるはずです。



食卓で笑顔のお二人



株式会社やなせスタジオ
代表取締役
越尾正子さん

株式会社やなせスタジオ代表取締役。やなせたかし先生の妻・暢さんとの縁で、1992年に有限会社やなせスタジオに入社。長年秘書としてやなせ先生を支え、現在も作品の管理に携わる。

職員がいきいきする職場に！

働きがいと 働きやすさの

バランスを考える

職員が「働き続けたい！」と思うのはどんな職場でしょう。
 労務管理はもちろんのこと、保育者が専門性を高めながら、
 保育が楽しいと思える、
 働きがいのある職場であることも重要です。
 働き方改革について、多数の園の労務管理に携わる
 社会保険労務士の菊地加奈子先生と共に
 多角的な視点で考えていきます。

監修・執筆 菊地加奈子

取材協力／こんべいとぶらねっと イラスト／すみもとななみ

目次

part1

はじめに バランスの取れた職場環境を目指して……………011

適正な労働時間、休暇、
 キャリアパス、賃金制度の整備
 保育の質の維持・向上のためには
 労務管理が重要……………012

事例1

「頑張りやすさ」を重視し、
 仕事に誇りをもてるように……………014

社会福祉法人風の森……………014

事例2

職員間の公平・公正を前提に、
 憧れをもって働ける仕組みを構築
 学校法人リズム学園……………017

part2

オピニオン 『保育ナビ』編集委員と「保育現場における
 働き方改革の課題」を考える……………020

part3

職場の声からPick Up

私の職場、ここが好き！
 職員の働く意欲アップのコツを紹介……………022



バランスの取れた 職場環境を目指して

業種を問わず、働きやすさと働

きがいのバランスが取れた組織は生産性が高いとされていますが、保育・幼児教育の職場環境では「生産性」を「保育の質」に置き換えて考えることができるのではないのでしょうか。例えば、職員の働きがいのみにより、働きやすさを感じられない組織では、仕事が楽しいから休憩も残業も関係なく働くことができる職員が多く、モチベーションが高い組織のように見えますが、意識しないところで疲労が溜まり、メンタル疾患やバーンアウトのリスクがあります。また、私生活上の制約がある人やプライベートを大切にしたい人にとってはそもそも長く働き続ける

ことが難しくなるでしょう。

一方で、働きやすさだけに重きを置いて、働きがい指標が低い組織では、残業なし、休暇・休憩100%取得といったホワイトな職場を目指す傾向にあります。しかし、人手不足の中、働きやすさを最優先することにより保育の質向上のための工夫をすることなく、負荷軽減を図るため、職員の成長

実感が薄れ、働く原動力が「賃金・待遇」に偏り、個々の権利主張が強くチームワークや園への貢献意識が低下するリスクがあります。

職員に保育理念が浸透し心理的安全性が担保された、「働きがいがあり、働きやすい環境」を目指すことこそが、真の働き方改革といえるのです。

菊地加奈子

プロフィール●菊地加奈子(きくちかなこ) / 社会保険労務士法人ワーク・イノベーション代表。社会保険労務士として全国600超の保育園、認定こども園、幼稚園等の労務管理・給与計算・処遇改善等加算・キャリアパス・人事制度構築の支援を行い、セミナーも多数登壇。働き方に関する国の会議の委員なども務める。





保育実践から読み解く 「安心と挑戦の循環」

毎回1園の保育実践から、「安心」と「挑戦」（豊かな遊びと体験）に焦点をあてながら、遊びの中でそれらが「循環」する様子を紹介します。

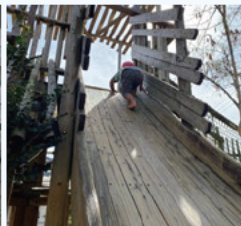
5月号 監修：秋田喜代美先生（学習院大学 教授／東京大学名誉教授）
イラスト／ニシハマカオリ



登れない1歳児の手を取り、手助けしようとする年中児。このような様子も見られます。



横板から飛び降りる年中児。それぞれが自分の力を知っているのので、できそうになれば、みんながやっても真似しません。



急勾配に苦労していても保育者は見守る。登りきった時の子どもの「ドヤ顔」は格別です。

アスレチック 「なかよしタワー」



木造の3階建てですが、階段やはしごはありません。いくつかある登り口からよじ登れなければ上では遊べない仕掛けです。自分の体を引っ張り上げる力が必要です。年長児になるとほぼ登れるようになります。

子どもが自分の力を知るための 挑戦を大人が見守る

「安心と挑戦の循環」の
視点から

ポイント…やりたいことを邪魔しない

園の多様な保育環境でくり返し遊ぶうち、子どもたちは、まず、何が危険で安全か察知する能力を身につけます。そして、失敗した時の身のこなしなど身体的な能力も育ちます。自分のできることを確かめながら、無茶なことはせず次の段階に進むので、大きなけがにもつながりません。自分の力を知るための様々な経験が大事だと思っています。

また、保育の見える化も重視しています。10年ほど前から、保育者が撮った保育中の写真や動画を、保護者や職員たちとLINEを使って共有しています。この共有を始めたあたりから、保育者が子どもたちを見る目や接する態度が変わりました。「これからどうなるんだろうっ?」とその次を楽しみに待ちながら保育するようになったのです。そうになると、保護者にもそのおもしろさを知ってもらいたくなるものです。現在、LINEグループは全体、各クラス、合わせて7つあり、毎日たくさんの画像や動画が送付されてきます。

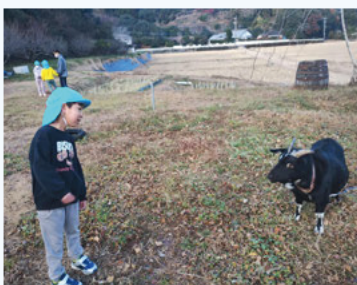
お話

社会福祉法人ひなた会
認定こども園
日向なないる保育園

所在地：宮崎県日向市大字富高6285-51
園児定員：135人

園長
園田修一先生





なないろの森

森の広大な敷地には起伏のある原っぱや大きな池などもあり、ヤギ(クロちゃん)の飼育もしています。まず入園説明会で保護者には、けがを恐れすぎて「ダメ」が多くなり、保育が監視になってしまえば子どもは育たないです、としっかり伝えます。園生活を通して子どもたちが力をつけていくのが見えることで実感してもらっていると感じます。

生活発表会「なかよしチャレンジ」



アスレチック、虫探し、鉄棒、ボルダリング、ダンス……。得意なことや今挑戦していることの中から親御さんに見てもらいたいものを子ども自身が決めます。見栄えよりも、子どもの自己決定を尊重し、ありのままを見てもらう会です。

0歳児の庭



あえて床に起伏や傾斜をつけてアンバランスな環境にしています。ここで生活するうちにバランス感覚、平衡感覚がつけばいいなと思っています。

COMMENT



安心と挑戦の循環を 子どもも保護者も 実感できる環境づくり

秋田喜代美先生

(学習院大学 教授/東京大学名誉教授)

0、1歳児から幼児期までの保育環境の中に保育理念が具現化され、一貫して埋め込まれています。子ども自身がどこまでなら挑戦できるのか判断する力を体験を通して育み、自ら伸びようと挑戦する姿を伸ばし、危険を回避できる判断力、安心感、セルフリスクマネジメント力も培われています。その基盤は子どもへの信頼です。その子ども親を共有し、保護者にも実感してもらうためのお迎えの工夫やLINEでの動画や写真送信などの工夫が生きています。子どもも保護者も保育者も見守り育むための園ネットワークや環境のデザインにぜひ学びたいですね。

プロフィール ●秋田喜代美(あきた きよみ) / 学習院大学文学部教授。東京大学名誉教授。こども家庭庁こども家庭審議会 会長、こども誰でも通園制度の制度化、本格実施に向けた検討会 座長。『研修アドバイザーと共に創る 新しい園内研修のかたち』(フレーベル館) など著書多数。

これなら、他学年の子どもの様子もなんとなく見えてきます。加えて、お迎えの際、保護者は園内で遊ぶ自分の子どもを探しだし、保育者に挨拶をして帰宅します。探す過程で、流行っている遊びやだれと仲良しかなどの情報が得られ、子どものリア

ルな園生活が見えるのです。保育者には、子どもたちのやりたいことの邪魔をできるだけしないようにと伝えています。子どもたちには、様々なことに挑戦し、たくさん失敗して、しっかりと力をつけて卒園してほしいと思っています。

あなたの園では、本当に子どもの姿を捉えられていますか。子ども一人ひとりに目を向け、そこにある意味を問うことが、「子どもの姿ベース」の保育となり計画となります。ある園の実践例を紹介しつつ、子どもの姿ベースの指導計画の進め方を解説します。

保育が変わると計画が変わる

子どもの姿ベースの指導計画

監修・執筆 大豆生田啓友（玉川大学）
執筆 佐伯絵美（合同会社子どもベース）
協力／益田ひかり保育所（島根県）

やってみよう！

第2回 テーマ

保育の振り返りと 保育環境の見直し

今月のポイントを
動画で確認しよう



取り組みのスタートは園内研修から。他園の実践例を聞きながら、今求められる保育のあり方について学び、その視点で自分たちの保育を振り返るところから始めました。

「子ども主体の保育」とよく耳にしますが、ある保育所では「保育者が子どものことをちゃんと見られていない気がする……」という園長先生の悩みから、一旦立ち止まり、自分たちの保育を振り返ってみることにしました。それは、今まで「子どものために」と熱心に取り組んできた保育の根底を見直すことでもあります。もしかしたら、保育者の方にとっては、それ自体戸惑いやつらさを感じることもかもしれません。だからこそ、一人ひとり異なる子どもの声を尊重するようになり、保育者一人ひとりの戸惑いも含む「想い」を大切にしながら、この園の保育は動き出しました。



イラスト／すぎやまえみこ



佐伯絵美
（合同会社
子どもベース代表）

プロフィール●佐伯絵美（さえき えみ）／合同会社子どもベース代表。約20年間、保育現場で実践を重ねた後、同社を立ち上げる。様々な保育現場とつながりながら、各園での子どもの声・思いを大切にされた保育の実践を共に目指す。

ステップ1 自分たちの保育を振り返ってみよう

振り返りの ポイント

- ・可能な範囲で立場、働き方、専門分野を超えて「みんなで一緒に」考える場をつくる
- ・私（たち）の保育を振り返る機会

それまで実践してきた保育も、子どものために一生懸命取り組んできたはずです。だからこそ、そこから「変わろうとすること」自体が簡単ではないのです。また、長年保育を続けていると、意図を考えることを忘れ、当たり前前の習慣として日々をこなしてしまふこともあります。そうした意味で、一度立ち止まり振り返ってみることは、保育を考えるうえでとても大事な作業だと言えます。

振り返りって
どうして大事なの？

ステップ2 他園の実践例を見てみよう

他園の実践例を 聞く時のポイント

- ・ワクワクできる実践例を共有する
- ・できれば大切なポイントに沿って振り返りができるファシリテーターがいると良い

他園の具体的な実践を聞くことは、シンプルに「ワクワクしながら保育を考える機会」になります。それと同時に、自園の保育実践と照らし合わせながら聞くことで、「もしかしたら、うちの園はこうした視点が足りないかも……」と気付くチャンスにもなる可能性があります。

他園の実践例って
どう活かすの？

ステップ3 環境を見直してみよう

環境を見直す 時のポイント

- ・何のために環境をつくるのかを明確にしながら始める
- ・各クラスで共有しながら進める
- ・安心とワクワク、両方の観点から考える

いろいろ考えた後、方法がありますが、まずは自分のクラスの子ども一人ひとりのことを話し合うところから始めてみてはどうでしょうか？ 発達段階や興味・関心、好きなこと等、一人ひとりの具体的な姿を話し合いメモしてみましよう。その後、保育室を見回してみると、「もっと、こんなおもちゃが必要かも」「これは必要ないかも」等が見えてくるかもしれません。また、一度に大幅に見直すことが大変な場合は、どこか一箇所から始めてみるのもおすすめです。

どうやって環境を
見直したらいいの？

子ども主体の保育実践から学ぶ

まずは子ども主体の保育の実践例を「みんなで」聞く機会をもちました。子どもの声が大切にされる他園の実践例を聞き、改めて自園や自身の保育を振り返ったのです。具体的な事例を聞くなかで、自分たちの保育との違いに気付いたり、子どもが自ら遊びを展開させる姿に驚いたりもしました。単に「うちの園もこんなふうにはやってみよう」と他園を真似るためではなく、「私の保育はどうだったか?」「ここは頑張っているけど、ここは改善したほうが良いかもしれない」と自分たちで気づききっかけとして、園内研修が活用されたということです。このことにより、参加した保育者の中に「私はこんなふうにはやってみよう」という思いが膨らみ始めました。

最初に問題意識をもったのは園長先生でしたが、取り組み始める際、各自が「当事者」として意識をもてるようにすることが大切なポイントなのかもしれません。



他園の実践例を聞く

益田ひかり保育所

1968年開所。遊びや生活、様々な人たちの豊かなかかわりを通して互いの学びを育み合うことをモットーに、「おしえて!あなたのわくわくを」と、日々丁寧に一人ひとりの子どもの姿に目や耳を傾けながらその子らしく過ごせる環境づくりに力を入れる。



園児数 / 108名
職員数 / 29名(常勤20人、非常勤9人)



子ども主体の保育に向けて取り組んでいこうと思った時、その1つの重要なポイントとなるのが「環境構成」の見直しです。実は、園による違いが大きいという実態もあります。園内の「振り返り」を通して、環境構成のあり方をみんなで見直していくことはとても大切ですね。自分の園内だけではなかなか新たな具体的なアイデアが出にくいことも多々あります。そうだとすれば、どこか魅力的な保育を行っている他園の保育環境を職員と一緒に見学に行くことも一案です。

クラスごとの保育環境づくり

園内研修後、いくつかのクラスで保育環境の見直しがスタートしました。それまでは、どちらかというと、保育者が考えた遊びや活動を提供する形だったため、子どもが自由に選択する環境は十分ではありませんでした。しかし、園内研修で「子ども自身が自己選択・自己決定できることが大事」と学んだ保育者たちは、すぐに動き出しました。

まずは子どもが手に取れる場所におもちゃをレイアウトしたり、遊びの種類ごとに空間を仕切ってみたり。もちろん、すぐには上手くいきませんが、試行錯誤を重ねながら、少しずつ環境が整っていききました。そんななか、「環境を整えたら、なんとなくクラスが落ち着いてきた気がする」という手応えを感じ始める保育者も。頭だけで考えるのではなく、まずはやってみることで、見えてくるものもあるのかもしれない。



自分のしたい遊びができるよう配慮した環境づくり

やってみよう!

- ・今まで実践してきた保育の意図を考えてみよう
- ・他園の実践例を聞いて、ワクワクしたところを共有してみよう
- ・子どもたちの興味・関心からあったら良さそうなもの、なくても良さそうなものを考えてみよう

保育内容

年間スケジュール

4月号	はじめに	10月号	保育ウェブ型月案を作ってみる
5月号	保育の振り返りと保育環境の見直し	11月号	保育ウェブを経験者と共に作る
6月号	子どもの姿を語り合う	12月号	語り合いにより記述を具体的に
7月号	保育ウェブを作る	1月号	保育ウェブ形式の指導計画
8月号	子どもの姿を記録する	2月号	環境図等を用いた記録
9月号	保育が変わり始めた時の再考	3月号	おわりに

プロフィール●大豆生田啓友（おおまめうだ ひろとも）／玉川大学教育学部教授。日本保育学会副会長、こども環境学会副会長。こども家庭庁「こども家庭審議会」委員および「幼児期までのこどもの育ち部会」委員、文部科学省「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会」委員。著書に『子どもの姿ベースの指導計画シリーズ』（フレーベル館）ほか、多数。

「こどもまんなか」 の食育

— 諏訪保育園が考える食育活動 —

食育＝活動ではなく、日々の遊びを豊かにする
食育について、子どもの権利の視点から考えます。



執筆 島本一男
(諏訪保育園 園長)

第 1 回

遊びに注目した食育
～食事は子どもの表現活動～



子どもの権利条約から
子どもをまんなかにした
食育に注目して

お腹が空いたら、ご飯を食べる。ほとんどの大人はそのように行動することが可能です。しかし、幼い子どもは、命をつなぐ食事を他者にゆだねて生きています。自由に食べることを必ずしも保障されているわけではなく、食べることで引き換えに無理なしつけをされることもある、危うい環境下にあります。

ですから私たちは、子どもの権利条約に基づき、子どもをまんなかに置いた食育を進める必要があります。食べることは子どもの権利であり、表現であるということに強く意識する必要があります。

お腹が空いた、食べることがうれしい、もっと食べたい、もういい、友だちと一緒に食べたい。こうした気持ちを子どもが自分の

心や体の声として聞き、表現する力を育むことも、食育を推進する視点としてたいへん重要だと思えます。食事を表現として捉えようと、必ずしも食育が食べる時だけの学びということにはなりません。つまり、子どもの学びの中心となるすべての遊びを通して、豊かな環境を整える必要があるのです。

そこで、連載の第1回は、「食事は子どもの表現活動」という視点で、子どもの遊びの中の食育について考えてみたいと思います。



●毎日「食べ遊び」

大人の生活に憧れ、その姿を真似して遊びを展開することが子どもの学びにつながっています。そ

の視点で、0歳児から5歳児まで、

ほぼ毎日、くり返している「食べ遊び」を見ると、食べること、調理すること、食器をきれいに並べること、おもてなしをすること、仲間と一緒に協力すること、自然（命）とつながることなど、食育が求める子ども像や目指す内容と、見事に合致していることに気付きます。

食べることに関する遊びを「食育」として捉えれば、遊びの環境を豊かにすることは、子どもの学び方に合った食育活動になります。



●「ごっこ」はリアルな体験

2歳児が砂場でままごとをしていました。スープ作りとして、

葉っぱや木の実、折った枝などをカップに入れ、ぐるぐるかき混ぜて友だちに「どうぞ」。受け取った子どもは飲む真似をして、満面の笑みで「おいしい！」と言いました。

おもてなしをした子どもつられて満面の笑み。「もういっぱい、いかがですか」と勧めました。

こうした子どもたちの「ごっこ遊び」は、「ごっこ」と言っては失礼にあたるかと私は考えています。なぜならその遊びは、子どもがリアルな体験として成長の糧にしている遊びだからです。

さらにその活動は、私たちの生活を模倣したものがほとんどです。つまり、ごっこ遊びのうち、特に「食べ遊び」は、私たちの食生活や文化について考え直す機会にもつながっているのです。

「食べ遊び」は、食育が求める子ども像や目指す内容と、見事に合致しています

次のページでは、諏訪保育園での「食べ遊び」の場面を紹介します。

事例紹介

「食べ遊び」に見られる 食育視点での子どもの姿

諏訪保育園で毎日くり返される「食べ遊び」を、食育の視点で捉えてみました。

友だちと一緒に料理 (4歳児)



3人で仲良く料理をしています。水や砂を調整しながら、交代でバケツに入れています。もうすぐあふれそうですが、しっかりコントロールして遊んでいます。

水や砂を入れる時、1人で勝手にやるとトラブルになります。順番を守る、こぼさないように慎重に入れることで、子どもたちの間に信頼関係が生まれます。料理を楽しむやり取り(おしゃべり)は、大人の姿を模倣しているのでしょう。

料理を冷ます様を リアルに再現 (1歳児)



ままごとでスープを作っていた子どもが、おたまにスープを入れて「フーッ!」と息を吹きかけていました。想像の世界ですが、こちらまで熱さが伝わってくるようです。

これは、実際に料理をしたり、食べたり、おもてなしをする時と同等の学びの瞬間です。同時にこれは、自分が受けた大人からの愛情の表出でもあります。

食べる、 食べさせる真似 (0歳児)



朝の室内遊びで、子どもたちがテーブルに鍋やトング、チェーンを持ってきて、それぞれままごとをしていました。

鍋にチェーンを入れて、トングで器用につかみ、「あむ」「おいし!」と言いながら、食べる真似。隣にいる友だちや保育者に「あーん」と言いながら、口元に運んで食べさせる真似。自分たちのペースで、楽しんでいました。

“こどもまんなか” の食育

本物のレストランの ようなおもてなし (4歳児)



ファミリーレストランに出かけた子どもの体験が再現されています。身の回りにあるおもちゃを駆使して、精いっぱいのおもてなし。この時の接客は、大人に負けないほど丁寧できれいな言葉を使い、仕事もしっとりしています。声までが、いつもと違う感じです。このように、理想の大人をイメージして遊びながら、人とつながるためのスキルも学んでいます。

一緒に食べたい人が いる子ども(1歳児)



テーブルの上にたくさん並んだ料理。家庭でも同じようなシーンがあるのでしょうか。そして、この子どもにとって、みんなで食べることがうれしい瞬間なのだと思います。

並べられた料理をよく見ると、ただ並べているのではなく、一つひとつが選ばれた食品であることが伝わってきます。人形の世話もしながらの食事風景です。

包丁を使う(1歳児)



包丁にはどんな役割があるのか、1歳児でもよくわかっています。このような遊びで学んだ体の動きが、この先、料理をする子どもの力となります。

このシーンでは、隣で遊ぶ仲間への安心感も伝わってきます。人とかかわる力の基礎が育ち合っていると感じます。

『保育ナビ』編集部からのお知らせ

『保育ナビ』読者モニター募集中

毎号の『保育ナビ』誌面に対する意見・感想を寄せていただける読者モニターを募集しています。応募締め切りは2025年4月15日（火）です。

詳細は『保育ナビ』で検索ください。

「保育ナビ」で検索* 

公式サイトやSNSで保育最新情報をチェック!

公式サイト

「保育ナビ」で検索*

YouTube



Facebook



Instagram



*『保育ナビ』の公式サイトアドレスが3月1日より変わりました。
新しいアドレスは、<https://hoiku-navi.froebel-kan.co.jp/> です。

保育ナビ

職員みんなで考える

保護者支援 10のポイント



保護者から信頼される職員集団になるためには何が必要でしょう。保護者とのコミュニケーションのポイントを紹介します。



執筆 浅井拓久也
(鎌倉女子大学)

保護者のことを知る

まとめ

「昔の親はもっとしっかりしていた!」という思い込みを捨てて、保護者が今どのような状況に置かれているかをきちんと理解しましょう。

保護者を取り巻く環境を 理解することが何より大事

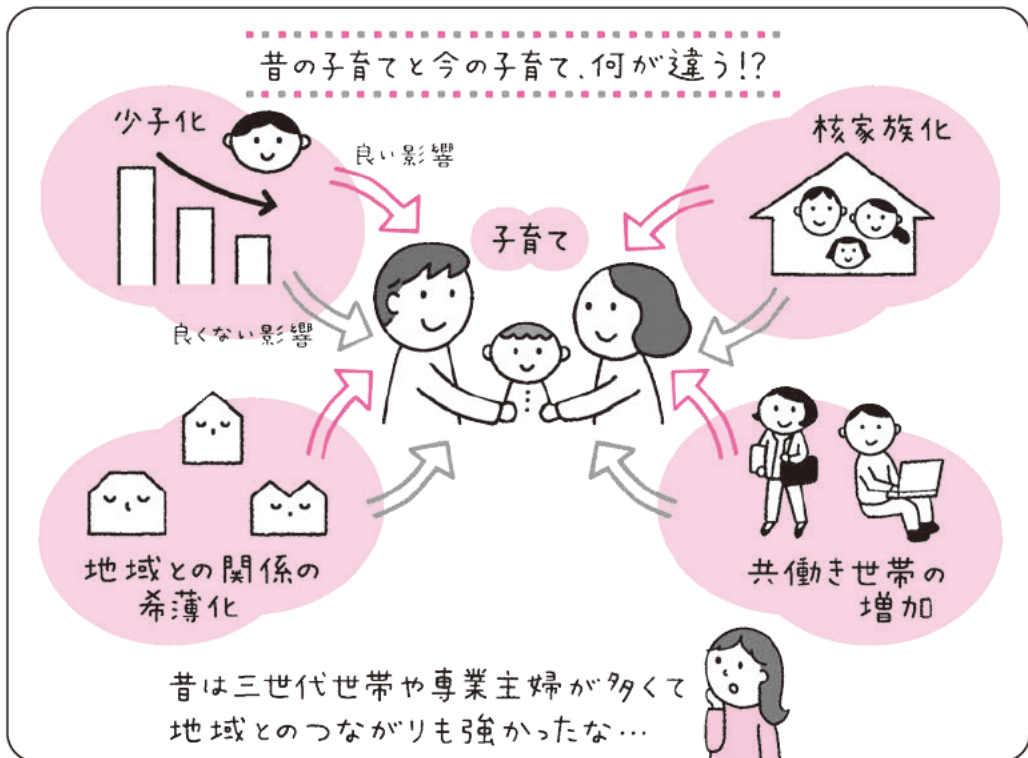
5月号から9月号にわたって、保護者から信頼を得るために日頃から大事にしたい5つのポイントを説明します。まずは、「保護者のことを知る」です。

保護者の子育てを取り巻く環境を理解することは、コミュニケーションを円滑に進めるうえで欠かせません。三世代世帯や専業主婦が大勢を占めていた社会の保護者と、核家族や共働きが一般的な社会の保護者とは、子どもへのかわり方や子育てに対する考え方や、園・保育者に対する期待が異なります。そのため、年配の保育者と若い保護者では「あるべき保護者の姿」が異なることがあります。お互いの保護者像が異なると、コ

ミュニケーションがうまく進みません。そもその前提が異なるのですから、どれだけ言葉を費やしてもわかり合えない感覚や違和感ばかり抱くことになってしまいます。これでは園・保育者と保護者が信頼関係を構築するのは難しいでしょう。

様々なデータを見ると、今の保護者は子育てで大変な思いをしていることがわかります。核家族化や地域とのつながりの希薄化によって子育てが孤立しやすくなっています。また、夫婦共働きによって子どもと接する時間が減少している親もいます。いわゆる「ワンオペ育児」に押しつぶされそうになっている親もいます。その

昔の子育てと今の子育て、何が違う!?



考えてみよう!

問い

少子化、核家族化、地域との関係の希薄化、共働き世帯の増加が子育てに与える影響とは何でしょうか?

話し合いのポイント

問いで示した4つの項目が子育てに与える良い影響と良くない影響は何ですか。子どもがたくさんいて、地域とのつながりが強く、三世帯世帯や専業主婦が当然だった社会と現代社会の共通点や相違点は何ですか?

考えるヒントのデータは
保育ナビ公式ページから

保育ナビ

※「保育ナビ」の公式サイトアドレスが3月1日より変わりました。新しいアドレスは、<https://hoiku-navi.froebel-kan.co.jp/>です。

ため、子育てや子どもへの対応を適切に行うことができなくなってしまうこともあります。にもかかわらず、「昔の親はもっとしつかりしていたのに……」「今どきの親は自覚が足りない……」と嘆いているようでは、保護者とのコミュニケーションを円滑にすることはできません。社会や時代は変わるものであり、それに伴って保護者の子育てや子どものかかわり方

も園・保育者に期待することも変わってきます。
「理解して、理解される」。これがコミュニケーションの大原則です。保護者が今置かれている状況を理解することが何より大事です。保育者が保護者のことを理解してこそ、園・保育者もまた理解されます。こうした相互理解があつてはじめて円滑なコミュニケーションが可能になります。

年間計画

- 4月号 はじめに
- 7月号 自分のことを知る
- 10月号 自然を考える
- 1月号 数字を使って考える
- 2月号 最後は割り切る
- 5月号 保護者を知ることを知る
- 8月号 ぐろぐろのいをちゃんと押さえる
- 11月号 解決すべき問題を考える
- 6月号 子どもを知ることを知る
- 9月号 難解な「コミュニケーション」を大事にする
- 12月号 目的から考える
- 3月号 まとめ

フレーベル館セミナー事務局からのお知らせ

フレーベル館 保育セミナー

5月開催 LIVE セミナーのご案内

(各セミナー開催日の2週間後より、14日間の見逃し配信がおります)



2025年度
セミナーの
パンフレットも!

※ HPよりダウンロードしていただけます
(このページの下部の二次元コードを
読み込むか、「フレーベル館 セミナー」で
検索してください)

マネジメント

保育者のための問題解決力 ～保育現場で輝く! コーチングの考え方～

LIVE 開催日時: 5月14日(水) 13:15～14:30

見逃し配信: 5月28日(水)～6月10日(火) 予定

受講料(税込): 個人申込(おひとり様) 5,500円

園申込(1施設様) 22,000円

講師: 孫ちよんす先生
(株式会社リール代表)



保護者支援・子育て支援

配慮を必要とする保護者を支援するポイント

～障害のある子を育てる保護者・外国籍の保護者などの多様な保護者～

LIVE 開催日時: 5月23日(金) 13:15～14:30

見逃し配信: 6月6日(金)～6月19日(木) 予定

受講料(税込): 個人申込(おひとり様) 5,500円

園申込(1施設様) 22,000円

講師: 西村実穂先生
(東京未来大学准教授)



発達支援

事例を通して考える「発達が気になる子」の理解と支援

LIVE 開催日時: 5月29日(木) 13:15～14:30

見逃し配信: 6月12日(木)～6月25日(水) 予定

受講料(税込): 個人申込(おひとり様) 5,500円

園申込(1施設様) 22,000円

講師: 阿部利彦先生
(星様大学大学院教授)



2025年度もお得なパック・プランをご用意しております!

LIVE

年間セミナー受け放題パック 年間パック対象のLIVEセミナーをすべてご受講いただけます!

オンデマンド

年額プラン オンデマンドセミナー100タイトルが2026年3月31日までご受講いただけます!
(前半期・後半期の半年プランもございます)

おすすめ15時間プラン セミナー事務局厳選! 15時間分のセミナーをご受講いただけます!

その他、2025年度のLIVEセミナーとオンデマンドセミナーの 詳細やお申し込みはコチラから!



※フレーベル館は幼稚園・認定こども園様について、処遇改善等加算IIに係る研修の実施主体認定を全国で受けております。ご案内しているすべてのセミナーが対象です(2025年2月時点)。

※配信時期、テーマ、内容、受講料、講師は予定です。一部変更となる可能性がございます。最新の情報や申込方法・セミナーの詳細はフレーベル館ホームページからご確認ください。(二次元コードからアクセス、もしくは「フレーベル館セミナー」で検索してください)

※保育士等キャリアアップ研修については、「一般社団法人フレーベル子育てラボ」にて「株式会社フレーベル館」の研修システムを使用した研修を開始しております。詳細につきましては、右記の二次元コードからアクセスしてください。



【問い合わせ先】株式会社フレーベル館 セミナー事務局 メール: seminar@froebel-kan.co.jp 電話: 03-5395-6637